

速 記 録 (平成14年10月24日 第5回口頭弁論)

事件番号 平成13年(ネ)第3260号

本人氏名 宋 ■ 葉

一審原告ら代理人 (中田)

あなたは現在、年齢満82歳、数えの83歳ですね。

はい。

趙判さんの奥さんですね。

はい、そうです。

趙判さんとは、年齢は3つ違いでしたね。

はい、そのとおりです。

あなたの戸籍によれば、あなたのお生まれは1926年で、実際と違うんですけれども、戸籍のほうが間違ってるということですか。

子供が多くて籍に入れることが遅れて、実際の年齢と戸籍上の年齢が違います。

現在は、お仕事はしてませんか。

はい、しておりません。

生活保護を受けておられますね。

はい、そうです。国からの生活保護です。

一人暮らしをしているんですか。

はい、一人暮らしです。

あなたはクリスチャンですね。

はい。

教会に行ったりしているんですか。

はい、よく行ってます。

娘さんが光州に住んでおられますね。

はい。行ったり来たりしております。

娘さんの年齢は何歳ですか。

60歳です。

この娘さんは、趙判同さんとの間のお子さんではないですね。

はい、そうではありません。

前に結婚されてて、その御主人が亡くなられて、趙判同さんと再婚されたということですね。

はい、そうです。

あなたは、学校教育はどこまで受けましたか。

全然行っておりません。

字が読めないのですか。

字を全く読めません。

趙判同さんと知り合ったいきさつについて伺います。あなたと趙判同さんとは、結婚する前は近いところに住んでいたのですか。

はい、ちょっと離れてましたけど。

どのくらいの距離離れてましたか。

4キロくらい離れたところですよ。

結婚されたのはいつですか、何歳のときですか。

24歳だと覚えてます、数え年で。

結婚してからは、あなたと趙判同さんと、ほかにだれと生活しましたか。

しゅうとめさんと一緒に住んでました。

しゅうとめさんというのは、趙判同さんのお母さんと、お母さんだけですか、お父さんもですか。

お父さんは亡くなられてお母さんと一緒に住んでました。

あなたの娘さんは、どうされてましたか。

結婚した当時は元のところに置いてきましたけれど、夫が日本に行かれた後に、しゅうとめさんが娘を連れてきて育てるように言うて

一緒に暮らしました。

趙判同さんが日本に行く前は、どんな仕事をしていたんですか。

農業をやりました。

あなたも手伝ったのですか。

はい、一緒に働きました。

趙判同さんは、1944年の5月ごろに日本に連れていかれましたね。

はい。

そのときあなたは、御主人と別れのあいさつとかできましたか。

あいさつもできず、言葉もしゃべることもなかったんです。田んぼに仕事に出て帰ってきたら、連れて行った後だったんです。

どのように連れていかれたか聞いてますか。

面の役場から連れていかれたと聞いて、面の町中を捜したりしましたけれど、日本の町に当たりますが、あちこち捜し回ったんですけれど会えませんでした。

趙判同さんが日本に行ってから、あなたに手紙が来たりすることはありましたか。

手紙も来ましたし、写真も送ってくれました。ちょっと待っていれば、いつか日本に連れていくかもしれないという話も聞きました。

手紙では、日本で何をしているというふうに書いてありましたか。

労働の仕事をやっていると言ってました。土を掘ったり運んだりする仕事で、体はかなりしんどいけれども、今ちょっと我慢してやっておりますということでした。

どんなことがしんどい、つらいというふうに書かれていましたか。

農業の仕事、力仕事を妻に一人任せてるから、それが大変だろうと。もうちょっと辛抱すれば日本に連れていくよと。ちょっと我慢してくださいということでした。

趙判同さんが日本でつらい思いをしたことはなかったんですか。

土を掘って運んだりしている途中に、その指揮者というか監督の人から、いろいろ殴られたりして、そういうのが結構、体罰とかが
つらかったということは言っていました。

写真が送られてきたということですね。

送ってくれました。

速記録末尾添付の写真を示す

この写真は、趙判同さんが日本からあなたに送った写真ですか。

はい。手紙の中に入れて送ってくれました。

その写真をあなたは今日までずっと持っているわけですね。

ええ、ずっと持っております。

あなたも日本にいる趙判同さんに写真を送ったりしたことはあったんですか。

ええ、送ったことがあります。

それは趙判同さんから求められて送ったということでしたね。

はい。

とても夫婦仲が良かったということですかね。

ええ、もちろんです。

趙判同さんが日本から船に乗って、浮島丸に乗って帰ることになるんですが、そのときの経緯とかは聞いてますか。

はい。解放されてもう帰っていいよというふうに言っていました。で、船に乗るために行ったら人が一杯来てまして、大勢の人がそこにいました。そして船は相当大きい船で、取りあえずその下のほうに乗るようにと言われて乗りました。

船が爆発したことは趙判同さんから聞いてるんですね。

ええ、もちろんです。何回もそういう話を聞かしてくれました。

そのときの様子を今から質問します。爆発があったとき、趙判同さんは船のどの辺りに乗っていたんですか。

爆発音があったときには船の下のほうにいまして、爆発してから下から水が入って来たりしてて、はしごに沿って上へ、上のほうにと移動しました。

爆発する音も聞いているんですか。

ええ、そうです。

その爆発の音がしたときの船の中は、どんな様子だったか聞いてますか。

爆発音がした時には、中には家族と子供とか奥さんたちも一緒に乗っていまして、荷物がまだ流れたりしているから、それをつかもうとする人とか、パニック状態で大変だったみたいです。

はしごを伝って船の上に上がったということですか。

はしごをつかんで上がったようですけど、爆発音がした後に荷物が流れたりしてて、人たちはそれをつかもうと一所懸命でした。とにかく、生きようとして上に上に上がったそうです。

上に上がった後、趙判同さんはどうなったんですか。

そのはしごが、上まで上がったときに倒れて水に流れてしまったと、水のほうに倒れてしまいました。

はしごごと海に投げ飛ばされたということですか。

そうですね。それで倒れて、そのときちょうど船が来て、生き残れたという話を聞きました。

海に投げ飛ばされてから救助船が助けてくれるまでは、どうしていたんですか。

荷物とかその辺の船の板みたいなものをつかんで、とにかく、浮いてるようにとしました。

それから助けられて、浜辺に運ばれたということですか。

はい、そうです。

船に助けられたときは、趙判同さんは服とかはどうなっていたんですか。

服は全部脱がされて何もなかったみたいですね。

爆発のときのことを、趙判同さんはどんな思いをしたというふうにあなたに話してましたか。

船が壊れて、その破片で、波もしてましたので、その波と船との間に挟まれて、人が死んでいったようです。それでぶつかったりして大変な思いをしたようです。

このときに、趙判同さんはけがをしているんですか。

最初はそんなにひどくなかったんですけども、そのときの衝撃で、家に帰ってきてから倒れてしばらく横になっていました。しかし、そのときは、経済的な事情が病院に行けるような状況でなかったの
で、病院にも行けませんでしたけれども。

それから、舞鶴から九州に行き、九州から韓国に帰ってきたということですね。

はい。

あなたの家に帰ってきたときの様子を伺います。趙判同さんは帰ってきたとき、どんな様子でしたか。

その姿を見てお母さんは気絶しました。しかし、私としては、どうしていいか、最初はもしこれ死んだかもしれないと思ったんですけど、後で息子が呼ぶと意識を取り戻しました。

どんな様子で帰ってきたんですかね。

最初はそんなにひどくなかったんですけども、手足を使えない状態でした。足が使えなかった。

意識のほうは、はっきりしてたんですか。

意識もしっかりしてなくて、多分もうろうとしている状態だったと

思います。

あなたのことを奥さんだと分かる状態だったんですか。

自分の家に着いたというのは分かってたようですけど、私を認識してくれなかったような気がします。

はっきりと意識が戻ったのは、帰ってどのくらい後ですか。

2か月くらいかかったんでしょう。そのとき、2か月くらいたってから、多分この人が自分の妻だ、これが夫婦なんだとそのとき分かったと思います。

体のほうも、いろいろと不自由な体になって帰ってきたんですね。

はい。

一人で歩けたんですか。

歩くのは歩けたみたいです。

普通に日本に行く前と同じように歩けたんですか。

近くまでだれか連れてきて、そこから家までは、かろうじて歩いてきましたけれども、普通に動けるような状況では全くありませんでした。

家に帰ってきてからも、腰が痛いということを言ってたということですか。

はい。いつも痛いと言ってました。

痛みは、だんだん悪くなっていったんですか。

悪くなってきました。それで手術を3回しました。

どこの手術をしたんですか。

腰が全然動かさなくて、脊髄の手術を最初にしました。

手術をして、少しはよくなったんですか、変わりませんでしたか。

ちょっとはましになりましたけれど、病院からは膀胱炎であると言われて、もう一度手術をしました。

家の中では、場所を移るときには、どんなふうにして移動していたんです

か。

最初は起きることもできなくて、起こしてあげたり、立つのを手伝ったりして、こういうのを（法廷の証言台をつかむ）つかんで歩いたりしました。

とても夫婦仲が良かったということですが、帰ってきてからは、夫婦生活もできない体になっていたということですか。

全然できませんでした。それで、夫婦というのは全然こう理解、分からない状況できました。で、こともありません。

手術をされたということですが、その費用はどうやって工面したんですか。

お金がなかったので、ちょっとある畑や田んぼを売ったり、それからお金を人から借金したりして手術の費用に当てました。

趙判同さんは、仕事は全くできなかったということですね。

ええ、仕事は全然できませんでした。

家の経済は、あなたが仕事をして支えていたということですか。

ええ、そうです。

農業をして支えていたということですね。

はい、そうです。

田畑を売った後は、どうやって生活をしたんですか。

国から補助金を少しもらって、夫が生きてる間、少しもらって。

現在の住所、光州に引っ越しをされたのは何歳くらいのときですか。

数え年で62歳で、娘が光州にいたので光州に引っ越しました。

あなたが62歳のときということですか。

はい。

田舎の土地もすべてなくなって光州に移ったということですね。

そうです。

確認ですけども、結婚したのは日本に行く前に結婚はしてますよね。

はい。結婚した直後に連れていかれました。

役所に結婚の届けをしたのは随分後のようなんですけども、それは覚えてますか。

はい。

結婚の届けが遅れたのは何か理由があったんですか。

何の理由も分かりませんと言うんですが、大体、だんなさんのほうで婚姻届を出しますので、本人としては出されていたかどうか分からない状況。

趙判同さんのお兄さんの子供さんを養子にしていますね。

はい、そうです。

先ほどの爆発の話ですけども、この話はあなたは趙判同さんから何回くらい聞いたことがありますか。

いつもそういう話をしてました。

あなた以外に近所の人とかに話しすることもありましたか。

もちろんです。で、いろんなところでそういう自分の経験談を言っていました。

浮島丸に乗って犠牲になった人はたくさんほかにもいるんですけども、そういうほかに同じ経験をした人との付き合いみたいなものはなかったんですか。

うちの村には、同じ船に乗った人がなかったです。ところが、海南というところに、ちょっと離れているところなんですけど、そこに同じ船に乗船した人がおるといふうに聞いてますから、その人と何回かお話をされたようです。

裁判を起こすときのことを伺います。趙判同さんは、今回の裁判を起こしましたね。

はい。

趙判同さんは、この事件についてどんな思いでいたんでしょうか。

いつも、いつかはこれ、法律によってちゃんと結果が出て賠償されるから、ちょっと我慢してくださいと。ただ、ふるさとの田んぼと畑を全部売っちゃって、こういう状況でどう生きるのと言ったら、いつかは必ず結果が出ますよと言っていました。

この事件について、日本に対して、どんな思いを持っていましたか。

夫が日本に行って提訴したりして、いろんな悔しい思いをして、一体どういうところかって。私がこのまま死んでも死にきれないと思って、絶対、私も行って訴えてやるみたいな気持ちで来ました。

あなたのお気持ちと別に、趙判同さんは、日本に対してどんな気持ちでいたんですか。

いろいろと言葉に言い表せないほどの憤慨を抱いていたみたいですけれど、強制連行されて、その後、いろいろたたかれたり殴られたりして、それで結局、帰るところを故意に爆発して、人を死なせたという。自分も腹の具合を非常に悪くして、しかも仕事もできない状態で、家族も養えない状態で、しかも、裁判のその事件の判決も結果も何もないというので、非常に怒りを持っていました。

亡くなってますよね、裁判起こしてから1年余りで。

はい。

どんな状態で亡くなられたんですか。

非常に裁判起こして帰ってきてからは、性器が機能がうまくいかなくて、それを取る手術をした。で、おしっこを普通にできなくて、ホースをおなかから出して、そのような状態で病院に1年間通ってましたけど、結局、それが1年後に悪くなって、結局は亡くなりました。

あなたが今回、趙判同さんが亡くなった後に、裁判を引き継ごうと思った理由はどういう理由からですか。

夫が亡くなったときに、こういうことの解決も見ないで亡くなったという悔しさもありまして、私は死んでも日本に絶対行って訴えますよというふうにしたら、回りの方がみんな、その体でどう行くの、行くなよと言われましたけど、それでもとにかく日本に行ってみましようというので来ました。

甲B第67号証を示す

調査表です。これは、あなたが李金珠さんに話したことを聞き取りしてもらったものに間違いはないですか。

はい。

これは、聞き取りの場所はどこでやりましたか。

どこでやったか知りません。

李金珠さんのところで聞き取りをしたのではないですか。

はい、そうです。

ほかの原告の人たちは、三、四年前にこれを提出しているんですけども、あなたはそのとき提出をしていないんです。

体が悪くて、動けない状態だったので。

甲B第119号証を示す

こういう書面を裁判所に出していることは聞いてますね。

はい。

この書面は、あなたの娘さんがあなたの養子の人と連絡を取って出してもらった書面で間違いはないですね。

はい、そうです。

養子の方は、趙判同さんの裁判をあなたが引き継ぐことを承諾しているわけですね。

はい、そうです。

趙判同さんの日本に対する権利のすべてをあなたが引き継ぐことを承諾しているわけですね。

はい、そうです。

最後に、あなたが裁判官の皆さんにお話ししたいことがあればお話ししてください。

この浮島丸事件の解決が余りされないでずうっと長引くので、うっぶんとか怒りとかで、私が出てきて、この目で日本というのはどういうところか、とにかく、行ってみて、ひと言言いたいと思って来ました。

(以上 細田 セツ)

一審被告指定代理人 (藤谷)

ひよとしたらご覧になっておられないのかもしれませんが、今から5年くらい前に、日本の平安遷都200年を記念して浮島丸遭難事件を題材にした映画が作られたんです。エイジアブルーという映画なんですけれども、これはつい最近インターネットを見てましたら韓国で上映したという話が載ってたんですけれども、ご覧になりましたか。

見たことはありません。

実は私も見てないので、もしご覧になってたらその評価を聞きたいなと思ったんですが。

裁 判 長

さっき、夫から手紙が来たと言っておられましたけれども、だれに読んでもらったんでしょうか。

私が文字が読めないので、弟の息子、弟が隣に住んでましたけど、そこの住所にいつも手紙が来ます。そこのおいっ子が手紙を持ってきて読んでくれます。

御主人は日本に呼び寄せたいというふうに言ってたというふうにさっき何
度もおっしゃっておられたんですけれども、それは間違いないんでしょ
うか。

はい、そうです。

どうして呼び寄せたいというふうに言っておられたと今から考えますか。

ちょっと我慢すれば日本に連れていくというふうに言ってましたの
で、時間がたてば一緒に暮らすかなと思いました。

(以上 井上 陽子)

大阪高等裁判所

裁判所速記官

細 田 セ



裁判所速記官

井 上 陽 子

